

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 2 項目別評価 I. 業務運営・財務内容等の状況 (2) 財務内容の改善に関する目標</p> <p>【原文】 <u>【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる</u></p> <p>【申立内容】 <u>【修正文案】 の通り変更願いたい。</u></p> <p>【修正文案】 <u>【評定】 中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある</u></p> <p>【理由】 外部資金等の獲得について ○平成24年10月設置のURAオフィスによる研究支援等により、外部資金のうち ・科研費は、平成16年度(3億7,181万円)との比較で、約1.8倍の6億6,745万円となる過去最高獲得額を達成。 ・共同研究は、平成16年度(1億5,947万円)との比較で、約1.3倍の2億894万円となる過去最高獲得額を達成。 ・上記に、補助金、受託事業、受託研究、寄附金を加えた外部資金の総額は、平成16年度(13億3,172万円)との比較で、約2.5倍の33億4,919万円となる過去最高獲得額を達成。 ○医学部附属病院では、多職種からなる経営戦略企画部会による様々な増収策や他大学とのベンチマーク等の取組により、診療報酬請求額は、平成16年度(100億円)との比較で約1.5倍の149</p>	<p>【対応】 原案のとおりとする。</p> <p>【理由】 申立て理由に記述された取組を含め、財務内容の改善の取組の状況を総合的に勘案した評定としているため。</p>

億2千万円となる過去最高額を達成。

経費削減について

○医学部附属病院では、「新総合医療情報システム」として、電子カルテを中核とした院内のソフトウェアやデータ等を集中管理するシステム「プライベート・クラウド」を全国の病院で初めて全面導入し、看護業務の年間約390時間の超過勤務削減、病院全体の年間消費電力の約30%削減を実現。この取組は全国的に注目され、内閣官房副長官が出席する政府の「第2回次世代医療ICTタスクフォース」でも本学教員がICT活用の病院運営例として講演した。更に、これを継続発展させた「次世代ナースコールシステム」の独自開発による効率化の取組については、総務副大臣が先進的なシステムの導入例として視察（平成26年8月20日）し、「先々までのビジョンを持った最先端の取り組みであり、大いに期待している」（8月21日福井新聞掲載）、「ナースコールを入り口に最先端の医療システムを目指す姿勢がうかがえる。ビジョンがしっかりしており、非常に期待できる」（8月21日産経新聞掲載）といった高い評価を受ける等、全国的に注目されるものとなっている。

○全学的な大幅なエネルギー削減に向け、全キャンパスを対象に、既存建築物の設備・システムの省エネルギー改修にかかる費用を光熱水量の削減分等で補うESCO事業の導入を平成25年度に正式決定した。

今回、本学で実施する、設備・システム等の改修・更新に加え、その運転管理、施設管理を一体的に運用する「管理一体型ESCO事業」は、利用者・施設管理者・ESCO事業者の三位一体で取り組むことにより、これまでの通常型ES

CO事業に比べて戦略的かつ効果的に大幅なエネルギー削減を行うことが可能である。

この全キャンパス対象「管理一体型ESCO事業」は全国的にも事例が少なく、国立大学としては初めての実施である。削減効果としては15年間で約15億円を見込んでいる。

以上の通り、本評価項目については、平成25年度の外部資金等獲得において、大学、病院ともに、過去最高額を達成しており、また、経費の抑制策として、国レベルでも注目される、先駆的な「プライベート・クラウド」を活用した病院経営や、国立大学初で全国モデルにもなる、全キャンパス対象「管理一体型ESCO事業」の導入等により、増収・経費削減の両面で顕著な成果を挙げていることから、総合的に判断しても、特筆すべき進捗状況にあると考えられる。